

経営比較分析表

神奈川県 湯河原町

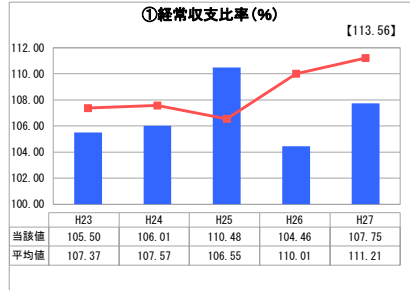
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	42.55	89.94	1,674

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,010	40.97	634.85
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
23,222	7.40	3,138.11

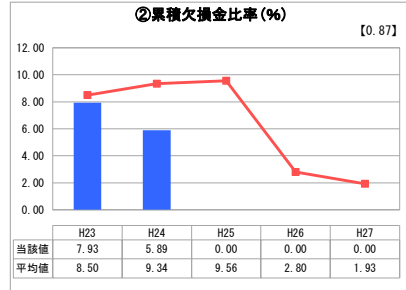
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

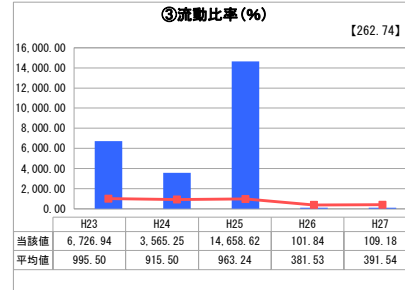
1. 経営の健全性・効率性



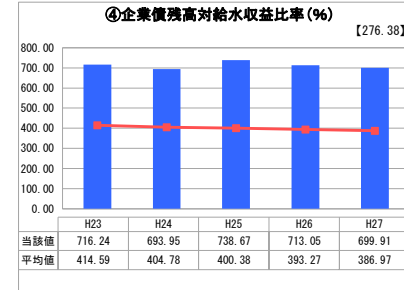
「経常損益」



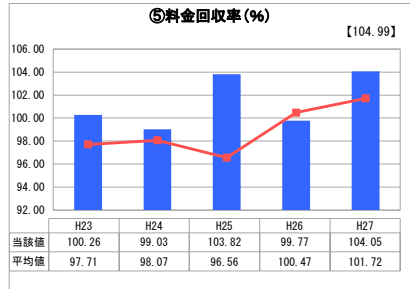
「累積欠損」



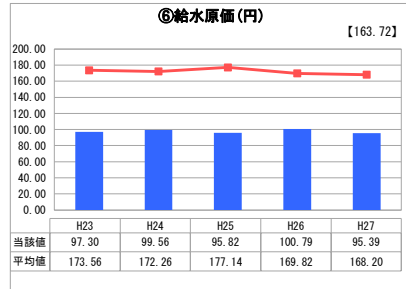
「支払能力」



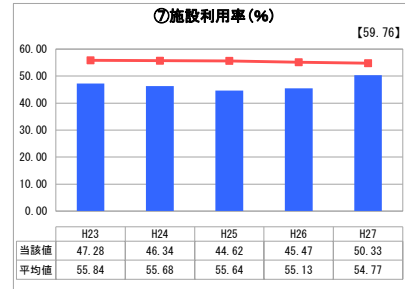
「債務残高」



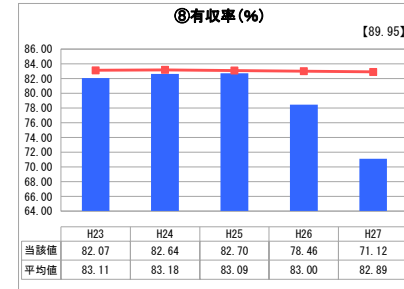
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

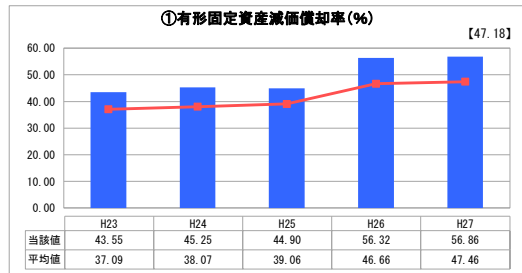


「施設の効率性」

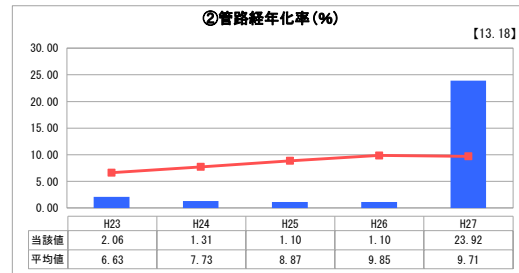


「供給した配水量の効率性」

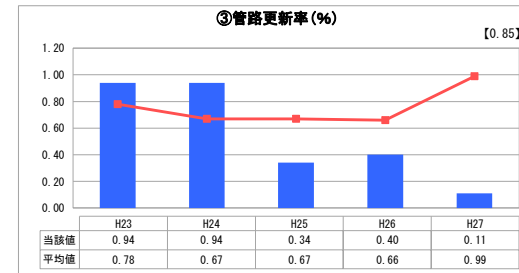
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損金比率0%、流動比率100%以上ですが、企業債残高対給水収益比率は類似団体内で高い水準、料金回収率は100%を若干上回る水準となっております。現時点での指標では投資規模が高いですが、給水に係る費用は給水収益で賄えている経営といえます。決算状況を経年比較すると、給水収益の減少傾向、現金の減少傾向が見られることから、近い将来、厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。また、有収率が低いことから原因を特定し漏水対策を講じる等により、維持管理費の更なる削減を図る必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率が類似団体内で高い水準になっている一方、管路更新率が類似団体内で低くなっていることから、施設の老朽化が進んでおり、必要な更新が進んでいないことが分析されます。老朽化対策が急務な施設の更新工事を、施設利用率も考慮し計画的に実施する必要があります。

全体総括

近い将来、厳しい経営状況に推移することが予想されることや、施設の老朽化が進んでいる状況を踏まえ、投資計画の見直し、漏水対策等による維持管理費削減を進めます。また、料金収入の見直しの必要性について検討を進めた結果、平成28年度に料金改定を行いました。今後も更なる財源確保ができるよう、検討していきます。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。